

文庫あれこれ◆二宮に住んでいるSさんご夫婦が、以前、私が



いつかとても不思議な「クリスマスローズのおはなし」をしたい、庭にその花を欲しいと、文庫だよりに書いたのを憶えていて、お宅の庭に咲いたからと持ってきて植えてくださった。私の好きな白。朝日を好むそうですが、人のいないこの庭に根付き、お話のように庭一面に広がってくれる

と嬉しい。◆絵本の部屋の建て増しが始まりました。どんなかしらと見にきたら、何と想像以上に小さくて狭くて、こんな空間にあのたくさんの本が入るのだろうか、子ども達が本を探せるのだろうか、清水の舞台から飛び降りた気分で、ナケナシ大枚をはたくのに、かなりショック…。(3月6日)◆上記までは、所用があって3月6日に文庫で入力しました。そして、3月11日午後3時少し前、東北沖大地震および大津波が発生、そして今日(17日)に至っています。そのとき東京でも震度5強を感じました。生まれてはじめての揺れでした。◆岩手、宮城の友人と今もって連絡がとれません。みなさんのお知り合いはご無事ででしょうか。放射能のことも不安ですね。◆伊東線が止まったまま、ガソリンも無駄遣いすべきでないとの文庫スタッフのお心遣いで今回は、多分大室のスタッフにお願いすることになると思いますし、停電やらで、パソコンが使えない可能性があり、本の貸し借りにご不便をおかけするかも知れませんので、よろしくお願いたします。また、増築工事中ですので、父母の方、子どもさんの行動には十分ご注意ください。◆なお、創立5周年記念文集の提出期限は3月文庫開館日とお願いしておりますが、まだ書いてない方がいらっしゃいましたら、4月の文庫開館日まで延長いたしますので、ぜひ、お寄せください。メールで送付の方は、なるべく早めにお送りください。◆冒頭ページの慈円の歌は、文庫にも来てくださった元セーラー出版社長の小川さんが著書のタイトルにつけられたことばの全文です。装丁も彼女の人物を表すらしく、一人身の女の日々を描いた考え深い連作集です。ぜひお読みください。◆この後もみなさんがご無事でお過ごしなされますよう、祈念しております。(西村)



### ☆5月の催し物☆

今年が文庫創立5周年ですので、特別に催し物やセミナーを予定しています。ぜひご参加ください。

5月14日～22日 アートフェスティバル開館

♡だんだん予定が煮詰まってきました!♡

★絵本で世界を巡る展(開館中)

★若葉のころのおはなし会(大人向け)

①14日(土)17:00～19:00

- 1部 様々な国の昔話(おはなし沙羅のみなさん)
- 2部 フルート演奏(内山洋子さん)
- 3部 青葉の笛(ゲスト佐藤香織さん) ほか

②22日(日)16:00～17:30

ゆったり聴こう日本の昔語り

佐藤玲子さん・渡部豊子さん(宮城・山形の語り部)

★若葉のころの子どものためのおはなし会

◆22日(日)10:30～11:30(東北の語り部の昔話)

★講座<本・子ども・世界>—父母、教師、保育士、図書館員、読書ボランティアのための—

◆21日(土)14:00～16:00

♡講師: 広瀬恒子さん(親子読書地域文庫全国連絡会代表。子どもと本のコーディネータ)沙羅の樹に子どもの本をたくさん寄付していただいています。現場でお困りの質問も受けてくださると思います。文庫のおかあさん方にも聞いていただきたいです。

要事前申し込み。参加費 500円(大震災義捐金nに)

### ☆☆今後の開館スケジュール☆☆

◆4月は通常、16日(土)、17日(日)開館

◆5月は上記、催物情報をご参照ください。

◆6月は通常、18日(土)、19日(日)開館

◆7月は16日(土)、17日(日)、

※文庫の時間: 土曜日は午後2時～5時、日

曜日は午前10時～午後3時

※毎月開館日の日曜には、「子どものための

小さなおはなし会」があります。

午前10:30～11:00

《楽しんで読み聞かせ・頑張っておはなし》

みんなで勉強会(おはなし・沙羅)

毎月土曜日 11:00～

興味のある方、ぜひどうぞ!

連絡先: 沙羅の樹文庫

電話 0557-51-3737

No.55 2011年3月号

# 沙羅の樹文庫だより



ひきよせてむすべば  
くさのいおりにて  
ほどけばもとの  
のはらなりけり

(僧 慈円)

友人の著書『ほどけばもとの』の出典です。  
(今月の新刊で入っています)

東日本巨大地震 たいへんなことが起きました。日本中のみんなが、立ち向かわなければ、日本のこれからは心配です。身のまわりから、できることから、対処しましょう。 沙羅の樹文庫

## 先月入った子どもの本の紹介

『ライオンとであった少女』(バーリー・ドハーティ著 斎藤倫子訳 主婦の友社 2010) 高学年向き

アベラはタンザニアで生まれ育ち、先に死んだ父も、やっとの思いで病院へ連れて行った母も幼い妹もエイズで亡くし祖母とふたり。今度誕生日がきたら、9歳になると思っていますが、7歳でも通る体つきです。

もう一人の主人公はローザ。ふたりの少女を結びつけるものはタンザニアです。ローザは白人の母がタンザニアでボランティアをしているとき、タンザニア人の父との間に生まれましたが、その後、母の故郷、イギリスの地方都市シェフィールドに住んでいます。父は妻子とともにイギリスへ移住・留学しましたが、自分の生きる場所はタンザニアだと、妻と娘を残して帰ってしまいました。ローザには母方の愛情豊かな祖父母がいます。

これらの話が、アベラとローザの双方から語られていきます。ローザが黒人だったとわかるところや、それでローザの悩みが透けて見えてくるところなど各所で書き方が効果的でぐっと物語に引き寄せられます。アベラとローザがどこで出会い、そして物語のクライマックスに辿りつくのか、ふたりが巡り会うであろう時まで、ふたりの現実や心を見つめていくうちに、私は、日本にいたら気にもかけないことに、知らないまま過ごしてきたことについて、考えさせられました。

ふとした運命のいたずらで、遠いタンザニアからイギリスに放り出されたアベラがローザ母子に行きつくまでに、何とたくさんの人々、そして制度が介入したことでしょう。アベラの辿る道、そして養子を受け入れる側のローザ母子の試練と、この社会福祉制度をまっとうに肯定しようと努力に努力を重ねるその従事者たち。作者がかつてソーシャル・ワーカーだったからこそ描けた物語だとも思いますが、強い衝撃を受けました。そして、重い社会情勢をかよわい背に負い、見知らぬ異郷で、次々に変わる生活環境を受けとめて生きるアベラ(死んだママの残した「強くなりなさい。わたしのアベラ、強くなりなさい」ということばを支えに)と、(母が養子縁組を希望するという)出来事をきっかけに、思春期の心の成長をローザを通して描く作者の2つの物語は、最後の2章の簡潔な見事さに凝縮されて、深い感銘を受けました。また、二人のソーシャル・ワーカー、タンザニアでアベラ母子に救いの手を差し伸べ、ロンドンで再会したジュディスと、根気よくローザを導いたモリーにプロフェッショナルとしてのゆたかな精神性を感じました。

## 新しく入った大人の本

『麒麟の翼』(東野圭吾著 講談社)  
『ぼんば憑き』(宮部みゆき著 角川書店)  
『もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら』(岩崎夏海著 ダイアモンド社)  
『ピエタ』(大島真寿美著 ポプラ社)※リクエスト  
『話の終わり』(リディア・デイヴィス著 作品社)  
『アーミッシュへの旅 私たちのなくした世界』(菅原千代志著 Pilar Press)※リクエスト  
『ほどけばもとの』(小川悦子著 作品社)  
『ムーミンのふたつの顔 ちくま文庫』(筑摩書房)『ちくま文学の森 8 怠けもの話 ちくま文庫』(筑摩書房)  
『日本語の古典 岩波新書』(山口仲美著 岩波書店)  
『罪と罰 上・下 改版 新潮文庫』(ドストエフスキー著 新潮社)※リクエスト  
『生の深みを覗く ポケットアンソロジー 岩波文庫 別冊20』(岩波書店)  
『ある日ある時』(あまんきみこ著 三省堂)  
以下、寄贈いただきました。  
『マビヨン通りの店』(山田稔著 編集工房ノア)  
『ある小さなスズメの記録』(クレア・キップス著 文芸春秋)

## 3月ある日の朝読・読みきかせ

1年:①『ソフィーは とっても おこったの!』(モリー・バング/さく おがわひとみ/やく 評論社)※火山が爆発するほどの怒りを感じたとき、あなたはどうする?  
②『ウサギのオッカケ』(ジル・ニューサム/ぶん クラウディオ・ムニョス/え 山口文生/やく 評論社)※引越して大好きな友だち環境から引きはなされた私が、今の生活に馴染めたのは…。  
③『さくら』(長谷川摂子/文 矢間芳子/絵 構成 福音館書店)※去年1年に入学した時、校庭に咲いていたさくら・ソメイヨシノ。僕たちがいるんなことを学んだり遊んだりしていた1年間、さくらもしっかり歴史をきざんで生きていたんだね。  
5年:①『おじいさんの旅』(アレン・セイ文・絵 ほるぷ出版 2002)※人生は旅・・・。  
②『むこうがわのあのこ』(ジャクリン・ウッドソン文 E・B・ルイス絵 さくまゆみこ訳 光村教育図書 2010)※おとなが解決できないことも、こどもの素直なわけへだてのない心が垣根を取り除いてゆくのですね。

## 新しく入った子どもの本

絵本:『あらうよバシャザブーン コルネイ・チュコフスキーの絵本』(偕成社)『ロシアのわらべうた コルネイ・チュコフスキーの絵本』(偕成社)『わたしが妹だったとき』(さのようこ作 偕成社)※リクエスト 『ぼくの図書館カード』(ウィリアム・ミラー作 グレゴリー・クリスティ絵 新日本出版社)『ぬすみ聞き 運命に耳をすまして』(グロリア・ウィーラン文 マイク・ベニー絵 光村教育図書)『オスカーとフーいつまでも』(テオ文 マイケル・デュドク・ドゥ・ヴィット絵 評論社)『はなをくんくん』(ルース・クラウスぶん マーク・シーモントえ 福音館書店)※リクエスト 『おじいさんの旅』(アレン・セイ作 ほるぷ出版)  
読み物:『健太、斧を取れ!』(クリストファー・ベルトン著 幻冬舎)※リクエスト 『カマキリと月 南アフリカの八つのお話 福音館文庫』  
『決戦! 妖怪島 妖怪ハンター・ヒカル5』『闇夜の百目 妖怪ハンター・ヒカル1』(斉藤洋作 あかね書房)ノンフィクション:『さくら』(長谷川摂子文 矢間芳子絵・構成 福音館書店)『楽しく遊ぶ学ぶふしぎの図鑑 小学館の子ども図鑑プレNEO』(小学館)

以下、  
あまんきみこ作『みてよ ぴかぴかランドセル』(西巻茅子絵 福音館書店)『ふうたのはなまつり』(水谷章三脚本 梅田俊作絵 童心社)『コスモス あげる』(梅田俊作絵 童心社)※上記2点紙芝居  
『あまんきみこ童話集 全5巻』(ポプラ社)

あまんきみこさんのおはなしを聴く機会がありました。今年、80歳になられる方ですが、とてもお若く、作られるお話のように、やわらかな物腰の楚々とした方でした。人と人、人と動物とのふれあい、空や自然とのコミュニケーション…。あまんさんの特に幼年童話はやさしく心にしみてきます。“人はみな、その人が生きてきた道筋を重ねながら、誰でも木の年輪のように赤ちゃん時代、幼年時代、少年少女時代、青年時代、壮年時代と抱え持って暮らしているのだと思います。”…『ある日ある時 あまんきみこセレクション⑤』はやさしく書かれているエッセイで、子どもの本に、と考えましたが、おとなの人に読んでもらいたく、おとなの本として入れました。ぜひ読んでみてください。